

地域の「人・もの・こと」に学ぶ

堰本小学校 校長 高見 良典

昨年度末、「社会に開かれた教育課程」の一つの取り組みとして、生活科・総合的な学習の時間の単位を見直し、総合では、三年から六年の全てで、地域の「人・もの・こと」から学ぶ単元を開発しました。

三年「地域の名人とふれ合おう」では、カンフー、押し花、太鼓の名人においでいただき、名人技を教わりました。技はもちろんです、名人のそれらに向き合う「思い」などを学びました。

四年「民話に親しもう」では、梁川町内の語り部の先生においでいただき、地域に伝わる民話（昔話）を紹介していただき、民話の語り部に挑戦しました。「語り」ももちろん、先生方の「語り部」としての「思い」なども学びました。

五年「お米博士になろう」では、JAFくしくしま未来の方にお世話になって、バケツ稲栽培に取り組みました。栽培しながら、お米についてのそれぞれの課題について調べてまとめました。米や米作りについての興味関心を高めるとともに、収穫の喜びなども味わいました。十二月には、稲わらを使って、「しめ縄作り」にも挑戦します。

六年「堰本の歴史を探検しよう」では、堰本郷土史研究会の先生にお世話にな

り、地域に残る歴史を伝えるもの、例えば神社やお寺、古墳などを巡るフィールドワークを行いました。この学びを通して、子どもたちは、ふるさと「堰本」への思いを強くいたしました。

先日のお学習発表会では、三年から六年では、これらの学びを生かし、子どもたちの創意工夫を凝らした発表を行いました。

ゲスト・ティーチャーの皆様には、このコロナ禍の中、趣旨にご賛同いただき、ご協力いただきましたこと、改めて感謝申し上げます。また、これらの学習には、堰本地区青少年育成協議会のご支援もいただいております。重ねて感謝申し上げます。

この取り組みは、次年度以降も、本校の特色ある教育活動の一つとして、長く続けていきたいと考えております。引き続き、地域の皆様の温かいご理解とご支援を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

最後に、これらの学習の様子、学校のホームページでも紹介しておりますので、ぜひ、そちらものぞいてみてください。



活動紹介 原コスモス会（原町内会）

原町内会の女性で「原コスモス会」として、会員の親睦を図っている会です。現在、10人のメンバーで、2人ずつが幹事を担い、1年に1回の宿泊を楽しんでいます。前身は「原若妻会」で、途中、名称を変えて現在に至っています。今年41回目の開催となりました。10月24日、飯坂の「湯左衛門」に宿泊し、8人が参加しました。早めに宿に入り、ゆっくりお茶を飲み、だり温泉につかったりした後、宴会でした。今年度は新型コロナウイルスの影響で、恒例のカラオケはなく、静かに「しりとりに遊び」を楽しみました。

言葉に詰まると、両脇から答えの助けもあり、10周くらい回りました。エンドレスかなと心配になるほどでした。次年度の幹事を選び、また1年かけて集金し、次の宿泊の企画を楽しみにしています。



初雪とアンズリウム
色鮮やかに来館者の目を楽しませてくれて2年目の冬になります。

編集後記【編集委員ひとこと】

「健康だけが取り柄です」なんて昔の年賀状に書いた覚えがあります。足腰が痛む最近、全く何の取り柄もなくなりました。(S)

この1年、コロナで私たちの生活は翻弄され、「新しい生活」を余儀なくされました。人類への試練かな。(H)

年末のドカ雪にうんざりです、老体にはこたえるので、無理せず、自然にお任せです。早く春が来て！(R)

農家はいい時も悪い時もある。いい時ばかりでも、悪い時ばかりでもない。と教えられました。でも僕は…。だから百姓の来年！(K)

コロナウイルス収束しないですね。ワクチン接種するまで駄目なのかなあ。もうしばらく我慢が必要ですよ。頑張らましよう。(T)

11月に1年ぶりにチャリティーゴルフ大会に参加。日頃の運動不足と寒さをしみじみ実感しました。(Y)

表紙写真は、東木田町内会の小賀坂義行さんで、あんぼ柿干しの作業風景を撮らせていただきました。妻の久美子さんと仲よく柿むきをしていて、ほほえましかったです！

人と地域を育む愛宕の里せきもと

令和3年新春号（季刊誌）NO.7

見づくりせきもと



せきもとさとづくり推進協議会

明けましておめでとうございます。
ご家族お揃いで、新年を迎えられた事とお慶び申し上げます。
昨年、春から「新型コロナウイルス」の世界的大流行に翻弄され、年間行事は、自粛、自粛で大変な一年でした。その中で、女性部会創部や、愛宕山周辺遊歩道整備事業に着手できたことは、嬉しい限りです。
今年、「アマビエ様に新型コロナウイルスの早期収束」を願い、会活動を再確認し、より良い会発展のために、役員が研鑽を積む良い機会と思えます。コロナ禍を「ピンチをチャンス」と捉え、飛躍の年にしたいと思えます。役員・理事一同「3密回避」遵守で、コロナに負けず頑張りま

活動報告

秋の美化運動 11 / 15 花の植栽

11月15日、小学校前・新田駅前花壇・ローソン1苗の植栽作業を、地域振興部会、女性部会役員、本部役員の13人で行いました。冬から春にかけて、寒さに耐え、道路際をきれいに彩る白紫や黄色のパンジーに、心むむことと思えます。



初の資源回収を実施

11月29日(日)、当協議会女性部会主体による「資源回収」を実施しました。各町内のゴミ集積所に集められたアルミ缶などを、交流館駐車場に運び、仕分け作業を行い、業者さんのトラックに積み込みました。
肌寒い中での作業でしたが、順調に進めることができました。



また、各町内会のゴミ集積所で対応いただいた町内会長さんをはじめ関係者の方々に厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございます。
回収量につきましては次のとおりです。
・新聞4060kg ・段ボール2230kg
・雑誌960kg ・アルミ缶340kg
買い取り金額は5万4740円となりました。地域の皆様のご協力に感謝申し上げますとともに、里づくりのために有効に活用させていただきます。



アルミ缶もかなりの量!



段ボールをパッカー車に積み込んでいます。

堰本女性セミナー

11月17日(火)、テーマを「脳トレ体験教室」認知症を予防しよう」として堰本女性セミナーを開催し、17人が参加しました。
(以下は、メンバーの長澤京子さんの参加記録より)
まず、認知症と予防についての学習では、市高齢福祉課の方から認知症とは?と、その原因となる脳の病気を学びました。
日本では65歳以上の割合が28.4%の3500万人、伊達市の割合は36.4%の2.1万人、高齢化率は今後も増加が予想され、認知症と診断された人は4000人いるとのこと。認知症とは、脳の細胞が様々な原因で死んだり、働きが悪くなったりするため、生活の上で支障が出ている状態を言います。原因となる脳の病気は、アルツハイマー病、脳血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症などあり、症状として記憶障害、実行機能障害、見当識障害、理解・判断力の障害が挙げられます。
認知症は、早期発見・早期診断が大切で、早期に見することで適切な治療や内服によって症状が改善したり、進行を遅らせることができます。早めに専門家に相談・アドバイスを受けてくださいたいとのことでした。
その後の「脳トレ体験」では、「言葉のパズル」「10までの足し算」「ひらがなの並び替え」「5箇所の間違い探し」をやり、受講者の皆さんと答え合わせをしまれずに安心しました。毎日少しずつ脳を使って、認知症の予防を積み重ねることが大事です。学習会に感謝!



クラフトバッグ誌上作品展

【メンバーの声 手芸クラブに入会して】

一昨年の女性セミナーでクラフトテープのバッグ作りを習い、もっとやりたいとのみんなの思いからクラブが発足しました。
クラフトテープから作り出されるバッグは、色合いや編み方によって同じものとは思えないほど変化する魅力にはまってしまいました。次から次へと挑戦しています。(菅野 吉)



橘内つぎ子さん できるまで、ドキドキ、仲間ができて嬉しかったです!
齋藤恵子さん 完成すると大変嬉しいです。たくさん作りました。
原田はな江さん やっとできました。嬉しかったです。
齋藤靖子さん 花結びが好きで何個も作りました。



佐藤久子さん できた作品を見て、とても嬉しかったです。
霜山和子さん 先生、仲間が優しく大変楽しかったし、完成した作品を見て嬉しかったです。
澁谷一枝さん できた時の達成感、何んとも言えなかったです。
菅野キミエさん 綺麗にできて、嬉しかったです。



菅野ミチさん 娘の注文に応じて作れるようになりました。喜ばれりと嬉しいです。
堀江さよ子さん 指を痛めても、できた時は嬉しかったです。
橘内祐子さん 完成、ばんざーい!
山下としいさん 皆さんと仲よく楽しくやれて良かったです。



山下辰子さん 最初難しかったけど、皆さんとできた時、とても楽しく、楽しかったです。
小柳和子先生 堰本の受講生の皆さんのチャレンジャー精神に圧倒されます。逆に勉強になります。
菅野吉さん 先生にやさしく教えていただけなのが挑戦する力です。
佐藤恵津子さん 作品は沢山作りました。今は花結びに夢中です。最高です。

円満であること



慈恩寺住職 中島 智全

年齢を数え年で記憶している方は、お正月がきておもちを食べると、またひとつ年をとったのだなあ、というめでたいような、めでたくないような実感を味わっておられるのではないのでしょうか。七十歳の次が七十一歳、そのまた次が七十二歳、というかぞえかたは、つまり、時間の流れを一本の線と同じに直線的に扱っているのです。時間はただまっすぐに進むだけで、絶対にあと戻りしないという考え方に従えば、七十二歳が七十一歳になることはあり得ないでしょう。

けれども、年をとると子どもにかえるとか、もの忘れがちな年ごろになっても幼いころの友達顔だけは決して忘れず、よく思い出すとか、そんな話を耳にすることがあります。また山奥のふるさとを離れて都会で働き、老年に再び生まれた土地に帰ってのんびり老後を過ごす、という例も少なくありません。時の流れは、過去、現在、未来の順であつても、川の水が海に入り、海の水が水蒸気となって空にのぼり、再び雨として降りそそぎ、川に戻ってくるように、人の心、魂(たましい)霊というものは必ずしも直線的に進んでいってそ

れきり、というように動くものではありません。

仏教の考え方によると、霊や生命そのものは、人の体を仮の宿としていますが、肉体とはかわりなく、無限に生まれかわり、別の姿になってこの世に現れ、また、去つていき、また現れるのです。これはすなわち、時間の流れや生命というものを一本の直線としてではなく、ぐるりと回ればまた元のところに戻る円として考えることになりま

す。輪廻(りんね)とは、こういう考え方から生まれた言葉です。お正月を迎えることは、自分の寿命が一年間だけ短くなる、ということではありません。ただ、なま身の自分が円の中の辺りにいるか、それだけの問題なのです。人の身の上は様々に変わり、生命のあり方も変わりますが、生命そのものが消えてなくなることはありません。このことをよく覚えておきましょう。仏教は円、丸いもの、円満であることを大切にしている宗教です。鏡もちを見たら、自分はまっすぐ進んでいってやがてなくなるの



だろう、などと考

地域の方々紹介

心を元気に!



菅野忠司さん 菅野忠石材店経営 大関上原在住

新年明けましておめでとうござい

ます。昨年からコロナ禍にあり、皆様方には静かな新年をお迎えのことと思います。さて、体育協会は昨年二月の綱引き大会以降は感染防止のため、事業は全て中止しました。伊達市においてはこれらが正念場になると思われま

す。昨今はスポーツ人口の減少や、高齢化等により、町内対抗の参加チームは減少傾向にあります。その対策としてレクを多く取り入れて、個人・グループ参加が可能なスポーツフェスティバルを企画しましたが、水害・コロナで開催できていません。開催可能な節はぜひ参加していただきたいと思

さて、ここからは私事で恐縮ですが、還暦辺りから肩、膝の痛みに加えて目の衰えもあり、スポーツからは遠くなりつつあります。

ただ、仕事はおかげさまで人がほとんどいない墓地なので、感染の心配もなくボチボチと仕事をしています。それから、二十代頃に活動していたバンドを四、五年前から再開し、定禅寺・川崎のジャズフェスで演奏しましたが、今は全てが中止状態です。

そしてもう一つ、一昨年の水害で水没したバイクを諦めて、半年くらい前に(V・MAX)を購入しました。時間を見つけてはソロツーリングに出かけリフレッシュしています。

今は、お酒を飲んでカラオケもダメ、旅行も、温泉で息抜きも。感染のリスクを考えればもう少し我慢の時です。自分なりの楽しみを見つけて、心を元気に。頑張ります。



愛車V・MAX とツーリングに

禍に思う



佐藤宏隆さん 県職員 新田東前在住

新型コロナウイルス感染症の猛威が収まる気配を見せません。むしろ第3波と見られる感染拡大局面が現実のものとなり、感染予防と拡散抑制の徹底により、一日も早い収束トレンドへの移行が待たれるところです。

コロナ禍は、私たちの日常生活はもとより、世界中の社会、経済活動に甚大な影響を与え、その対応のために私たちは、これまでの行動様式の劇的変容を余儀なくされました。

とりわけ感染防止策として求められているのが、人と人との距離です。日常生活において他人と一定の距離を隔てることに加え、仕事に従事する際も、在宅勤務、リモートワーク、オンライン会議等々、非対面での業務遂行が急速に進展しました。働き方改革の一環として捉えれば時代の要請でもあり、こうした形態への移行は早晩なされたので

しよう。しかしながら、対面、紙ベース、押印を当たり前のスタイルとしてきた大昔の新人類である私は、雪崩を打ったかのような変化に伴う人と人との物理的距離が、心理的距離をも招かなければよいかと、一抹の不安、懸念も覚えます。

ICTやSNSを日常のツールとして使いこなす世代からは、それは杞憂だと一笑に付されそうですが、匿名性に隠れた誹謗、中傷の暴走や、偏った情報源へのアクセスによる個々人の思考、判断の硬直化、行き過ぎた同調圧力の横行など、ネット社会ゆえの弊害も顕在化している昨今、「目は口ほどにものを言い」を改めて実感する

とともに、対面だからこそ気づく会話中の相手の表情や、間、声のトーンの微妙な変化、それを読み解こうとするからこそ育まれる想像力も大切だと思

うのです。理不尽なわがままや独善的な独りよがりを容認することはできませんが、個性を尊重し多様性を許容することが、震災・原発事故、そしてコロナ禍を経験して再構築する今後の共同社会にはより求められるのではないでしょう。人と直接会うこともなくコミュニケー

生活に役立つマスクの改善



佐藤さゆりさん エステショップ経営 細谷浅間在住

福島市内にエステショップをオープンさせてから13年になります。その間、東日本大震災があり避難所に出向き市役所と連携を取り、避難者のお顔やハンドマッサージなどのケアを行うボランティア活動に参加しました。温かい手の温もりには心をいやすセラピー効果がとても高くハンドで行うエステはキレイになれる一番の近道です。今は新型コロナウイルスの流行でマスク生活を強い

られています。マスクの下のお肌はカサカサ、ニキビ、吹き出物、ブツブツとお肌はとても乾燥しています。そこで、キレイを目指す簡単でスペシャルなケアをご紹介します。【乾燥】12月の平均湿度56%で乾燥

のバリア機能が低下し刺激を受けやすく、肌トラブルの引き金になります。【対策】「冷え」が気になる場合、マッサージで血行の流れを良くし、低くなっている体温を適正温度まで上げる「温活」。体の内側から温めれば、血液循環も良くなり免疫力もアップします。(スパシヤルケア)いつものケアにプラスワンのマッサージをして、ぬくもりのある肌となります。

毎日、鏡で元気な自分のお顔を確認することがあります。元気にスタートすることができ



愛宕地内の里山づくりを開始!

今年度から伊達市の「地域づくり支援事業」を活用した里山整備計画を進めるようになりました。11月末から地元の有限会社菅野林産工業による立木の伐採が始まりました。さすがプロ!バツバツとなぎ倒されていきます。しかし、篠竹の伐採は相当難儀だったようです。

昔の道「赤道」周辺を整備して里山を復活させたいと思っています。忠魂碑西側に数台ほど駐車できるスペースを作り、散策しながら歩いて愛宕山まで行き、各方面が一望できる素晴らしい景色を堪能してもらえればと思っています。

当事業は3カ年計画での整備となります。完成すればまさしく「愛宕の里せきもと」となります。その際にはぜひ歩いていただき頂上でおにぎりをおぼり、ほっこりしましょう!

(地域振興部会)

篠竹だらけの斜面です。



業者による伐採の状況



農協

福島県多面的機能支払交付金の優良活動組織として堰本の2組織が令和2年度「優秀賞」を受賞

多面的機能支払交付金制度(地元では一般的に「水環境」と呼んでいます)には、福島県内で1399組織(令和元年度現在)が加入しています。細谷新田水環境保全協議会は平成19年度から、上原水と緑の会は平成26年度から取り組んでいます。交付金を活用し、農地を中心とした地域の整備を実施しています。

写真は、遊休農地への景観作物の植栽・繁茂し営農に支障をきたす竹の伐採・水田水路のコンクリート化(自主施行)の状況です。その他にも、消防団の方々に依頼している水質モニタリング・遊休農地の除草等々多様な活動を行っています。地域農業のために引き続き活動していきたいと考えています。



梁川町土地改良区より

福島県の「地域をつなぐ農村交流活動事業」制度を活用して、大関地区上原地内の遊休農用地(水田)を解消する地域関連の維持保全活動を当土地改良区が調整窓口となり、橋福男リーダーを中心とする作業チームを編成し、(作業日数9日間、延べ49人)6月と9月ごろに上原地の懸案であった荒廃農地2・6畝を解消しました。広域的に地域間連携を図ることは、持続的に農地、農業用施設が保全されて、遊休農用地解消と担い手集積に繋がる方策として期待されると思います。

堰本いきいきカレッジ

ふるさと学習・堰本の歴史②開催

晴れわたった11月17日、2回目の「堰本の歴史探訪」を開催しました。前回と同じく郷土史研究会会長・吉田勝重さんが案内説明ののち、会員の車に乗り合わせて見学地向かいました。



砂子堰の原点、取水口

霊山町山野川地内の砂子堰取水口を見学し、次に上原の片貝山隧道出口付近で説明を聞きました。石丸公園下の砂子堰碑を見て、色とりどりの落ち葉を踏みながら公園に登り金華山碑の説明を受けました。

今も流れる砂子堰。先人たちの偉業が営々と流れて、安定した稲作が受け継がれて、改めて歴史の目で見る事ができました。取水口は初めて見た方も多く、ここから片貝山の隧道をくぐり抜け上原の出口に流れる水は、歴史の流れの水と、新たな目で捉えたいと思います。



十六羅漢の説明

そのあと、新田・洞雲寺駐車場にて吉田会長より新田城の説明をいただき、次に柳澤智蓮住職さんに羅漢堂の説明をいただきました。十六羅漢のうち第一番に位置している「おびんずるさま」と言われる「なで仏」を、希望する参加者は手を消毒しながらなでさせていただきました。個性豊かな羅漢様方は、誰かに似ている方がいらっしやるかもしれないとのことでした。

最後に県北でも珍しいと言われる群墳の細谷・新山古墳群の古墳1号を中心に見学しました。戦後間もない頃は果樹園の中に10基の古墳があったとみられていましたが、新山古墳は、旧梁川町で昭和49年に発掘調査が行われた当時はほとんどが壊滅寸前の状況で、調査の結果、1号基から4号基で表示され、造営された時代は奈良時代末とみられるとのことでした。

2回にわたり堰本の「歴史探訪」を堰本郷土史研究会の皆様のご協力をいただき行いました。まだまだ知らない堰本のことがいっぱいあつて、学んでいくことの大切さを実感しました。

末尾ですが、見学場所を開示し説明いただいた洞雲寺の住職様、堰本郷土史研究会の皆様、本当にありがとうございました。



新山古墳群

広瀬川河川改修について

まだ記憶に新しい「令和元年東日本台風」。当地域でも広瀬川の氾濫により甚大な被害がありました。昨今の異常気象が引き起こす自然災害は想定を超えるものが多いような気がします。

令和元年10月12日夜には、当交流館にも避難された方が多くいらっしゃいました。床下・床上浸水・2階からボートで救助された方もいました。現在、福島県北建設事務所河川砂防課により「堤防整備工事」が実施されています。中ノ内橋から下流に向かって272mの区間です。工期は令和3年3月下旬までとなります。

堤防は約2m嵩上げされるため、東日本台風のような水量にも十分対応できるものとなることです。堤防と私有地の間には深い側溝が掘られています。

建設事務所の基本方針は次のとおりです。「社会資本の適正な維持管理や施設の長寿命化を計画的に行い、自然災害から命と財産を守り、社会資本を健全な状態で次世代へ継承し、『安らぎ』『ゆとり』が持てる県民生活を築きます」



改修が着々と進められている現場



令和元年10月13日早朝の状況

防火水槽塗装を継続実施しています。

10月19〜22日の4日間、引き続き防火水槽の塗装を実施しました。

作業前はかなりサビであったことが分かるかと思えます。足場を組んだ後、入念なケレン作業(下地処理、通常はサビ落としと言います)を実施します。サビを残したまま塗装をするとすぐ剥がれてしまうからです。その後は錆止め剤塗布、塗料塗布を経て完成となります。10年は持つでしょう! 「美しい地域堰本」に向かつて頑張りましょう。



今回の塗装チームの皆さん
左から、山下重雄さん、菅野倉実さん、鈴木健一さん。ありがとうございました。



作業前

「いきいきカレッジ/女性セミナー」

1〜3月の活動予定のお知らせ

- ① 1月21日(木) 10時より
「**円福寺のお坊さんのお話**」
- ② 2月18日(木) 10時より
「**津軽三味線に親しむ講座**」

※いずれもいきいきカレッジと女性セミナーの合同企画です。

堰本いきいきカレッジは、年齢、性別に関係なく、ご自身の心の豊かさや生きがいのための学習の場です。どなたも参加できます。(女性セミナーは会員制です)